

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度第2回上越市青少年健全育成センター運営協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況(4月～9月)（公開）
- (2) 若者育成支援事業の進捗状況（公開）
- (3) 第1回運営協議会で課題とされたこと(公開)
- (4) 情報交換(公開) 要項2ページの「次第」3の(3)と(4)の順序を入れ替えた。

## 3 開催日時

令和5年10月13日（金）午後2時から3時15分まで

## 4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟中会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員：梅澤健一、山岸賢一、阿部慎、井部佐恵子、市川直行、本多和利、曾我茂樹、北峰恵祐、竹内恵市、本間久美子、鈴木真理子、大堀みき、吉岡智宣
- ・事務局：上越市青少年健全育成センター 池田所長、野池指導員、山崎指導員、佐藤事務員

## 8 発言の内容

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）
  - ・事務局より資料1～4に基づいて説明（資料1参照）
    - 資料1 令和5年度運営方針、活動事業計画（資料1-P1～2）
    - 資料2 街頭指導の実施状況（資料1-P3～5）

資料3 特別街頭指導の実施状況（資料1-P6）

資料4 P T A街頭指導体験の実施状況（資料1-P7~8）

・質疑 なし

・事務局より資料5~7に基づいて説明（資料1参照）

資料5 育成委員協議会研修会（資料1-P8）

資料6 環境浄化活動（資料1-P9）

資料7 健全育成活動（社会を明るくする運動）（資料1-P9~10）

・質疑 なし

(2) 若者育成支援事業の進捗状況（公開）

・事務局より資料8に基づいて説明（資料1参照）

資料8 若者育成支援事業（資料1-P10~12）

・質疑

大堀委員：資料の表やグラフにある「ひきこもり」は具体的にどのような状態の人たちが入っているのか、分かる範囲で定義を教えてください。

事務局（山崎指導員）：一概には言えないが、若者の居場所F i tの利用者に普段の生活を聞いてみると、F i tに来所する以外はほぼ自宅にいて、スマホをしている人たちがほとんどである。必要なものがあれば親と一緒に買い物に行くことはあっても、本当に買いたいものがなければ外へ出ないという様子である。F i tには学校や包括支援センターなど、いろいろな人たちの支援を得たり、親から同伴してもらったりして来所している。

吉岡委員：F i tの相談対象者が昨年度の17人から今年度は26人に増加したとのことであるが、17人がそのまま継続し、残りが新規の人で合計26人なのか。

事務局（山崎指導員）：昨年度の17人が全員継続しているわけではなく、その中にはF i tを卒業した人や別の機関に移った人もいる。昨年度から引き続いて来所している人と今年度新規の来所者を合わせて26人を登録している。

吉岡委員：相談対象者のうち、15歳から18歳の割合が36%に増加しているとのことだが、男の子の対象者が増えているという理解でよいか。

事務局（山崎指導員）：そのとおりである。今年度新規の対象者のほとんどが男の子である。

吉岡委員：F i t の来所者の中には、たまに学校へ行く人もいるのか。

事務局（山崎指導員）：学校に通学しながら、何か困ったことがあったときに来所する人はいる。中学校時代に不登校を経験し、学校生活にいろいろな不安があるので、来所して話をしている。来所者には学校を続けている人もいれば、登校できていない人、登校できていないが学校をやめる決断をできない人もいる。

(3) 第1回運営協議会で課題とされたこと（公開）

- ・事務局より資料9に基づいて説明（資料1参照）

資料9 第1回センター運営協議会課題（資料1-P12）

令和5年度当初予算 センター運営費の経費内訳（資料1-P13）

- ・質疑 なし

(4) 情報交換（各機関・団体からの情報提供）（公開）

本多委員（上越警察署から）：（資料2参照）

上越警察署管内における犯罪発生状況と少年非行の状況について、情報共有を図りたい。まず、犯罪発生状況については、架空料金請求詐欺を中心として、オレオレ詐欺や還付金詐欺などを含めた特殊詐欺に注意してほしい。特に上越市は県内で近年最も被害が大きい。無料ソフトや広告サイトを介し、「ウイルス感染や未払いがあるので、コンビニで電子マネーによりいくら支払え」というサポート詐欺の被害に遭わないよう気をつけてほしい。電話でお金のお話が出たら詐欺と疑い、ぜひ警察にご相談いただきたい。家族や消費者協会に相談してもよい。少年非行状況については、次のことを気に留めてほしい。

- ・小中学生については、買い物に行く中で万引きをする事案が起きており、窃盗の罪を犯しているという感覚が乏しい傾向もうかがえる。
- ・高校生については、鍵をかけないで自転車を駐輪しているために、自転車の盗難被害に遭うことが多い。特に高校生がよく利用している駅前によく発生している。自転車の施錠を促してほしい。また、深夜徘徊は犯罪に発展する

入口であることも指摘したい。

・親世代が使い慣れ、便利で楽しいと思っているインターネットの危険性を両親が子どもにしっかり伝え、ネットモラルを教える必要がある。例えば、自分の写真・画像を送ってしまう行為は犯罪に巻き込まれるリスクが大きいことなどである。

北峰委員：包丁やマッチの使い方など、子どもや一部の親は分からない時代になっている。時には体験をとおして、危険性を学ぶことの大切さを感じている。

井部委員：令和5年4月から自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務になったが、小学生を含め市内の子どもたちはほとんど着用していない。そのことに関わり、警察で指導はしていないのであろうか。

本多委員：専門の係ではないので詳しいことは分からないが、警察では広報を常々行っている。県内のある市では、高齢者の方からヘルメットを着用しており、その様子を見ている環境下では、小学生からヘルメットを着用している家庭が多い。まずは大人からかぶらなくてはいけないのではないかと思う。

本間委員：「社会を明るくする運動」に関わり、今年の直江津地区の三・八の市は雨の降る月曜日ということもあって、人通りが少なかった。天候や曜日によっては出店者数も少なくなっているのでは、保護司会で場所も含めて検討いただきたい。

市川委員：この運動の事務局は、保護司会と青少年健全育成センターとで行っているが、今の意見をうかがい、次年度実行の際には検討させていただきたい。

吉岡委員：話が戻るが、資料10ページにある青少年健全育成研究会の講師が属しておられる新潟県就労支援事業者機構とは、どのような組織・団体か。

市川委員：それについては、保護司会でお答えする。この機構の本部は新潟市にあり、刑務所等の施設から出てきた人が就職するのが難しい中で、企業との間に入って職に就かせようと活動している組織である。

## 9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL：025-544-4690

## 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。